

| 重点取組分野 | 令和4年度 | | 総括 |
|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| | 具体的取組 | 自己評価結果 | |
| 充実した学びの保障 | <p>①新学習評価の二日目となり、昨年度の評価方法を振り返り、研修会を実施し、授業改善・評価改善につなげていく。(学習指導部)</p> <p>②GIGA端末を活用した授業展開、ネット配信教材を利用した自学習の推進を図る。(GIGA活用推進委員会)</p> <p>③学力・学習状況調査等の分析を通じて個々の生徒や学年集団の実状を把握し、学習指導の改善につなげられるよう支援する(教務)。</p> | <p>①研修会を実施し、学習評価について理解を深めることができた。各教科で工夫や改善、振り返りを進めるにつれて、課題や疑問点も増え、特に主体的に学習に取り組む態度に対する評価については難しさを感じる職員も多い。今後もさらに職員全体で評価方法を共有しながら生徒・保護者に説明できるガイドラインを作成していきたい。</p> <p>②GIGA端末の利用がより普及し、自ら進んで調べたり、情報共有したりすることが容易にできるようになった。</p> <p>③全国学状の分析を学校だより9月号に掲載した。S-P表を用いて分析したことにより、学年集団の傾向だけでなく、個々の生徒のつまずきにも気づくことができたのは研修の成果と言える。</p> | B |
| 豊かな心の育成 | <p>①道徳の授業での、ローテーション授業の実施、教科横断的な道徳の授業の実践をさらに進めていく。(学習・道徳)</p> <p>②生徒会活動や学級活動、班活動等を通じて様々な問題解決をしていく中で、他者の考え方を尊重する心やコミュニケーション能力を伸ばせるように支援する。(特活指導部)</p> <p>③学校行事を通じて、粘り強く課題に取り組み、集団の力で課題を解決していく姿勢を養い、他者の努力を尊重する心を育む。(体育祭・文化祭)</p> | <p>①道徳では、ローテーション授業を実施し、授業参観カードの記入などを行うことで全教員の授業づくり能力の向上に繋がった。また平和学習を中心に、教科横断的な道徳の実践を行った。</p> <p>②生徒会活動や学級活動、班活動等を通じて、リーダー育成や相互理解、コミュニケーション能力の向上に努めた。</p> <p>③体育祭・文化祭を通じて係生徒の主体性や実行力が伸びた。自分たちの取組を広く地域に見てもらおうとする発信力も育ったように感じている。</p> | A |
| 健やかな体の育成 | <p>①食について学んだ知識や健康な体づくりの重要性を主体的に考え調べたことを継続的に発信していく。(健やかな体 育成委員会)</p> <p>②ネットワーク校の栄養教諭を通して身近な食べ物や栄養についての情報を発信し、これからの生きる力にもつながることを目指した活動をする。(食育教育担当)</p> <p>③部活動等を通して、自ら健康を保持増進しようとする態度の育成や、部活動の根拠に基づく体力向上に取り組む。(部活動委員会)</p> | <p>①学校保健委員会や家庭科の授業を通して、中学生に必要な栄養素やバランスの良い食事について生徒自身が考え調べ発信することができた。</p> <p>②栄養教諭と密に連絡をとり、生徒に分かりやすい食の情報を発信した。今後は運動部の生徒とのコラボ企画(食事と運動に適した体づくり)を予定している。</p> <p>③日々の活動を通して、体力向上や健康への意識を高めた。</p> | A |
| 様々な人との関わり | <p>①職業講話や職場体験、福祉体験において外部人材の導入を積極的に行い、関わる機会を増やす。(研究部：総合)②地域と連携して自助・共助の防災学習を行い、地域関係機関と連携を強化していく。(保健安全指導部：防災)③地域行事への参加を再構築し、地域の一員として、他者と協力して安心・安全な地域社会を作ろうとする姿勢を育む。(生徒指導専任)</p> | <p>①数年ぶりに職場体験を実施することができ、とても有意義な活動になった。改めて地域の教育力の大きさに気づかされた。次年度は福祉分野を道徳部会に移行し、総合＝キャリアを柱に取り組みたい。</p> <p>②③夏祭りは今年度も中止が多かったが、健康祭への参加を促すなど、地域の一員として健康で安心・安全な地域社会を担う意識を高めた。</p> | A |
| いじめへの対応 | <p>① 定期的な教育相談、いじめアンケートを実施し、普段から子どもに寄り添う指導を心がけ、いじめ等の実態の早期発見、未然防止を図る。</p> <p>② いじめ防止対策委員会を定期的に開き、情報を共有し現状把握を図るとともに、迅速かつ組織的対応に努める。</p> <p>③ 道徳部会・特活指導部・YP実践推進委員会と連携して、いじめ防止・撲滅の土壌を作る。(生徒指導部)</p> | <p>①教育相談やいじめアンケートの実施をはじめ普段から子どもの様子を見守り、相談しやすい雰囲気を作ったことにより、いじめ等の早期発見・未然防止につながった。</p> <p>②週一回の生徒指導報告会やいじめ防止対策委員会の定期的な開催により、全校における状況を把握し、問題発生の際には迅速に組織的対応をとることができた。今後も丁寧な対応をしていきたい。</p> <p>③道徳部会・特活指導部・YP実践推進委員会と連携しながら、いじめのない学校・お互いを認め合う雰囲気作りを努めた。</p> | A |
| 人材育成・組織運営(働き方) | <p>①持続可能な学校のあり方を探求しながら、働きやすい職場環境と組織作りを推進する。(教育課程委員会)</p> <p>②ニーズに応じた研修会を企画・実施して、教職員のスキルの向上と育成を目指す。(教務・研修)</p> <p>③ファシリテーターチームを中心に、若手職員の抱える悩みや課題を共に考え、定期的なメンターチームで実践的な研修を企画し・実施していく。(メンターチーム)</p> | <p>①本年度はモデル事業の「働き方改革」の側面に重点を置いて数々のスリム化を図り、十分な成果を得られたと思う。次年度は「質の高い学び」の側面について、深化させたいと考えている。</p> <p>②③定例の研修会のほか、学力の見取り(評価)に関する研修会を開催した。研修担当が主催する研修会に加えて日頃の雑談等から始まるOJTも数多く行える職員集団に育ってきている。</p> | A |
| 特別支援 | <p>①「多様な学びの場」の充実。誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、多様な在り方を認め合える共生社会の実現につながるよう困難さに応じた指導の工夫や授業内外での支援を充実させる。</p> <p>②教育環境の整備。生徒の現状や課題を把握し、一人ひとりの特性に応じた支援の手立てを教職員間で共有することで、支援の方向性を統一し組織的に進めていく。</p> <p>③切れ目ない支援の充実。在学中から卒業後に至るまで、福祉、医療、地域などの各関係機関と連携強化に努め、切れ目なく支援をつなぐ。</p> | <p>①特別支援と不登校支援が重複する生徒も多い中、校内ハートフル事業が実施されたことにより今まで職員だけでは、行き届かなかった支援が行えるようになった。利用生徒同士もそれぞれの課題を抱えながら同じ空間で過ごすことで、学年を超えてコミュニケーションをとり、小集団ではあるが社会性を育む機会ができています。</p> | A |
| 自分づくり教育 | <p>①自分づくりを行っていくうえで、身につけるべき資質・能力を明確にし、学校の教育活動全体を通じて「自立のための基礎力」を高める。(研究部)</p> <p>②学級活動や班活動を通して、自分自身を振り返り、他者との関わりの中でコミュニケーション能力を高める。(特活指導部・学級)</p> <p>③子どもたちの社会的スキル横断プログラムを活用し、子ども一人ひとりの、個の力を育てるとともに、個が育つための集団を育てる。(YP実践推進委員会)</p> | <p>①コロナ禍前の活動ができるようになってきたため、年間の活動計画を見直した。次年度は実践期となるためさらなる推進を目指したい。</p> <p>②少人数グループや学級・学年単位のリーダーシップが取れるように、班活動や学級活動を進めるリーダー研修を行うことができた。次年度は各活動を振り返る機会を多くもたせ、個々の課題を見つけていきたい。</p> <p>③今年度はYP検討委員会の資料を使って、アセスメントシートを活用した個別の支援検討会を実施することができた。来年度以降、さらに生徒指導にYPを有効活用できるよう発信していきたい。</p> <p>④今年度はYP検討委員会の資料を使って、アセスメントシートを活用した個別の支援検討会を実施することができた。来年度以降、さらに生徒指導にYPを有効活用できるよう発信していきたい。</p> | B |
| ブロック内評価後の気付き | <p>教職員合同研修会をはじめ、授業公開・協議会、児童生徒交流会など、すべての活動を根岸小学校との間で2年ぶりに開催することができた。まだ一堂に会しての形態ではないが、各分科会をオンラインでつないで十分な意見・情報交換を行うことができた。また、これまでの実践を通じてお互いの教育活動を理解し合えたことで、小学校から中学校へのスムーズな移行や接続ができるようになってきている。中学校教員の間にも小学生を「我々根岸の子どもたち」と思える下地が固まってきており、互いに学び合い協力し合う関係が生まれている。</p> | | |
| 学校関係者評価 | <p>「持続可能な学校」と「質の高い学び」の同時実現をめざし、45分授業の積極的活用や、なごみルームで個に応じた指導を展開している。修学旅行に向けエイサーを授業に取り入れ、生徒が企業と協働で企画・作成したエイサーTシャツを販売し、売上を寄付する等、事前の平和学習が充実している。地域とともに推進してきた授業の枠を超えた防災教育が子どもたちの良い経験になっている。マスクをしたままの授業でも生徒はしっかり集中して授業を受けている。給食が子どもたちの安心につながっている。ChromebookなどICT機器を活用した授業を推進し、これからの時代に要求されるプレゼンテーション能力などをさらに伸ばして欲しい。</p> | | |
| 中期取組目標振り返り | <p>今年度は「学校給食」や「持続可能な学校の在り方モデル校」の取組も順調に進み、定着してきた。「学校給食」を「教材」としての考え方を、推進校のオブザーバーとして、本校の取組を発信した。また、「持続～」の取組では、中学校唯一のモデル校であったため、報告会后、問い合わせに対応した。これも教職員全体のチームとしての取組の成果と考えている。本校では「質の高い学び」の実現とともに、「働き方改革」につなげている。さらに「自分づくり・キャリア教育実践校」として、「(株)根岸カンパニー」を立ち上げ、起業した。地域に支援していただきながら、生徒の主体的な取組として移行しつつある。今後は効率化を図ってきたい。</p> | | |